

口頭発表

小学校における動物介在教育実施に際しての空間利用状況

亀井暁子*

静岡文化芸術大学デザイン学部

Ways to use space in animal-assisted education in elementary schools

KAMEI Akiko*

諸言

小学校の飼育動物は学習指導要領において複数科目で扱われ、また生命尊厳の教育をはじめ多くの教育目標と関連づけられている。そして飼育動物種は小・中型哺乳類、鳥類と多岐にわたる。小学校における動物介在教育において指導の効果をあげるためには、指導の際の環境、空間的要件によって貢献できる要素があると考えられるが、それらについての検討はなされていないのが現状である。熱心に動物介在教育に取り組み効果が実感されている事例において、その実現は人的努力によるところが非常に大きい、同時に既存空間を教育に適合する形に使いこなしている現象がみられる。教育に適合した環境が整備されていることは、教育の良好な継続や運営に貢献するのではないか。本研究では、小学校における動物介在教育実施に際しての空間利用状況分析を通じて、教育促進に有益な空間要件を提示することを目的とする。

方法

動物飼育を実践している小学校（鳥類・モルモット・ウサギ・ヤギ・犬飼育校）計 15 校を対象とし、動物が介在する教育活動のうち、動物と児童が接する活動の際に利用される空間についての調査及び運営方法に関する聞き取り調査を行う。空間利用状況分析結果を分類・類型化し、教育活動上、有益と実感される要素を抽出する。

結果

空間利用は大別すると 2 種存在した。動物を伴う教育活動が飼育場所及びその前面で完結しているものを完結型、飼育場所以外でも教育活動が展開するものを拡張型と定義する。分類類型を表 1 に示す。

完結型は、動物を伴う教育活動は飼育場所での飼育

活動が中心であり、それ以外は飼育場所前面での観察等である。飼育関連備品も飼育場所内に揃い、完結性が高い。5 校が該当し、いずれも飼育舎での飼育であり、動物種は鳥類、ウサギであった。完結型の空間利用を図 1 に示す。

表 1 空間利用分類類型

完結型	教育活動の空間 = 飼育場所 + 前面スペース	
拡張型	a)	教育活動の空間 = 飼育場所 + その他複数の場所
	b)	a) + 教育活動を支える付随的空間(複数目的)
	c)	a) + 個別の関わりの空間

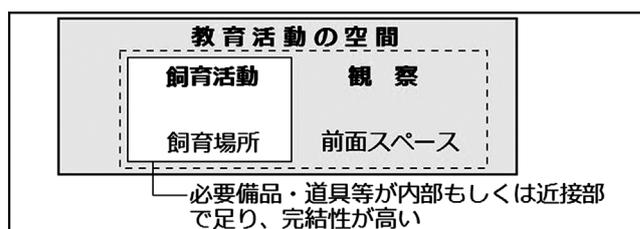


図 1 完結型の空間利用関係図

拡張型は動物を伴う教育活動が飼育場所以外でも展開するものである。基本型を拡張型 a) とする。教育活動では飼育場所とは異なる児童の生活空間を利用する。ヤギ飼育校の 5 校が該当した。該当する A 校を図 2 に示す。校舎に囲まれた中庭に建つ飼育舎で飼育し、中庭内のパーゴラ下や校舎脇等、飼育舎とは別の部位で動物と接し授業に活用する。飼育舎に連続する場所では日中、動物が自由に動き回ることができる。

* 連絡先 : a-kame@suac.ac.jp

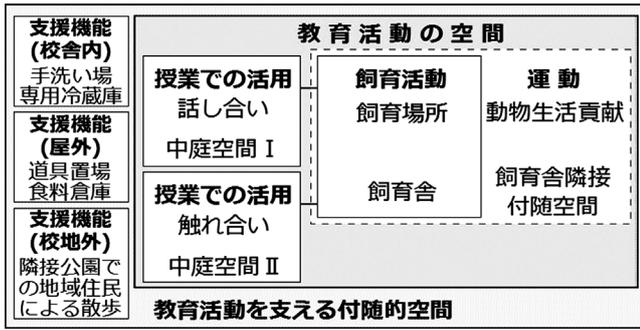


図2 拡張型 a) 事例 A校の空間利用関係図

拡張型の基本条件を満たしかつ、教育活動での不都合解消のため、付随する空間を活用するものが拡張型 b) である。該当する B 校を図 3 に示す。B 校はウサギをケージで飼育し、設置基本位置を職員室横廊下に設定する。教室に移し授業に活用の際には、給食時にアレルギー児童対応のため教室横の付随室に退避する。また動物の温熱環境確保や大規模清掃のため気候に応じて職員室及び職員室隣接のテラスを利用する。付随的空間が教育活動上不都合な部分を解消し、意図した教育活動が実現される点で、これら付随的空間の重要性は高い。

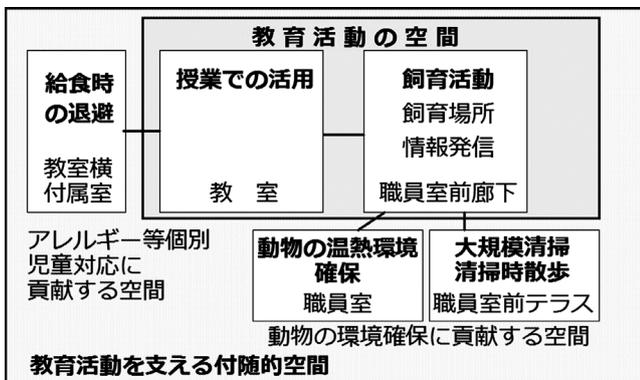


図3 拡張型 b) 事例 B校の空間利用関係図

拡張型の第三に、教育活動が児童全体だけでなく個別児童においても展開している拡張型 c) がある。該

当する C 校を図 4 に示す。C 校では職員室内の旧喫煙室を改修し犬の飼育室とし、飼育室出入口部にテーブルを備えた場所を設ける。この場所には不登校児童等、教室へ行くことが困難な児童が訪れる。児童全体に向け授業で活用される教室とは別に動物の居場所があり、落ち着いて関わるができる場所が併設されることにより、対象児童が拡大する。児童全体を対象とした教育活用と、個別の児童への教育活用、それぞれに対し教育活動を実践する場所の存在は、動物の教育への活用の対応範囲拡大に貢献し得る。

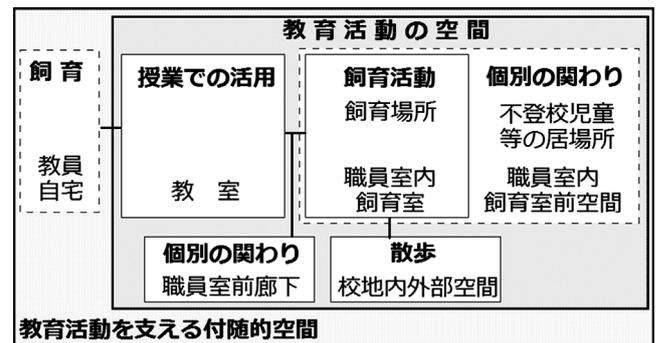


図4 拡張型 c) 事例 C校の空間利用関係図

考察

今日、小学校における動物介在教育の目的が複層的なものとなっている。その様な状況にあって、動物の教育活用に関わる空間も、飼育場所で完結せず周辺機能と関わり付随空間が活用されることにより、教育活動の展開に貢献する。拡張型の空間利用によって、教育実施時の不都合を減じ、児童への個別の教育活動も可能となる。空間が教育方法に柔軟に追従できることにより、教育方法の様々な展開に貢献し、また新たな空間へのニーズが出る—その様な良い循環が生まれることを期待する。

謝辞

本研究に際し、調査にご協力頂きました小学校の教員の皆様に御礼申し上げます。